

31日 水曜

Ⅱ サムエル



24:15 【主】は、その朝から定められた時まで、イスラエルに疫病を下された。ダンからベエル・シェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。

24:16 御使いは、エルサレムを滅ぼそうと手を伸ばした。【主】はわざわいを下すことを思い直し、民を滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」【主】の使いは、エブス人アラウナの打ち場の傍らにいた。

24:17 ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、【主】に言った。「ご覧ください。この私に罪があるのです。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。」

24:18 その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「上って行って、エブス人アラウナの打ち場に、【主】のために祭壇を築きなさい。」

24:19 ダビデは、ガドのことばにしたがって、【主】が命じられたとおりに上って行った。

24:20 アラウナが見下ろすと、王とその家来たちが自分の方に進んで来るのが見えた。アラウナは出て行き、地にひれ伏して、王に礼をした。

24:21 アラウナは言った。「なぜ、わが主、王は、しもべのところにおいでになったのですか。」ダビデは言った。「あなたの打ち場を買って、【主】のために祭壇を築きたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」

24:22 アラウナはダビデに言った。「わが主、王よ。お気に召す物を取って、お献げください。ご覧ください。ここに全焼のささげ物の

ための牛がいます。薪にできる打穀機や牛の用具もあります。

24:23 王よ、このアラウナはすべてを王に差し上げます。」アラウナはさらに王に言った。「あなたの神、【主】が、あなたを受け入れてくださいますように。」

24:24 しかし王はアラウナに言った。「いや、私は代金を払って、あなたから買いたい。費用もかけずに、私の神、【主】に全焼のささげ物を献げたくはない。」そしてダビデは、打ち場と牛を銀五十シケルで買った。

24:25 ダビデは、そこに【主】のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。【主】が、この国のための祈りに心を動かされたので、イスラエルへの主の罰は終わった。

主に頼むよりも、自分の実績と持ちものに頼ろうとして、ダビデは失敗しました。その結果、主により頼まなければ無力なものに過ぎないということを知ったのですが、重要なのはその後です。ダビデは素直に非を認め、主を第一とする信仰を表しました。

王として、すばらしい信仰によってイスラエルを導き、数々の栄誉に輝いたダビデでしたが、その最期には失敗と回復が待っていました。聖書は決して偉人を神格化しません。人間はあくまでも神の前には不完全なものなのです。完全な存在は神様のみで、私たちは非を認めて悔い改めて、そして主に従うことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

